

第三者評価結果

事業所名：海老名市障害者第二デイサービスセンター

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重	第三者評価結果
【A1】 A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<コメント>	
利用者一人ひとりが楽しく主体的に、自主性をもって過ごせるよう支援している。作業はチラシ折り、タオルたたみ、農作業、お弁当受け取りなどさまざまあり、毎日、朝の会でやりたい仕事を自分で決めている。月1回開催する利用者自治会では、日中活動や作業のこと、行事のことについて、利用者が意見を交わしている。夏の大きなイベントの「かっぱ祭り」や、1月の餅つき、日帰りや一泊旅行の企画などを、自分たちで決めて楽しんでいる。職員は利用者のペースを尊重するよう心掛けている。言語的なコミュニケーションだけでなく、視覚的なアプローチを活用して、利用者の理解に取り組んでいる。余暇時間も、折り紙やゲーム、水彩画、お茶などたくさんの方の選択肢を用意して、利用者が自分で選んで楽しむことができるよう取り組んでいる。「かっぱ堂に来てよかった」と感じてもらえるよう工夫している。	
A-1-(2) 権利擁護	第三者評価結果
【A2】 A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<コメント>	
権利擁護マニュアルや職員行動指針に沿って、利用者支援している。法人に権利擁護委員会を置き、権利擁護に関する研修会を開催している。年1回、職員は「人権チェックリスト」を用いて、自分の支援に不適切な点はないか確認している。虐待や身体拘束の防止に努めているが、送迎の際にどうしてもシートベルトをしない方がおり、危険防止のため、家族に一時的に体を抑えることを説明し了承を得て、個別支援計画に対応内容を記載している。緊急やむを得ない場合の対応は、必要な手続きを踏んで記録に残している。利用者の人権について、会議の中で具体的な例をあげて話し合いを行っている。また、アンガーマネジメントなどの研修会を開催して、振り返りの機会を設け、利用者の支援にあたっている。	

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本	第三者評価結果
【A3】 A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント>	
利用者が本人の望む本人らしい生活を送ることができるよう、本人のニーズや興味、趣味、考えなどを把握し、また家族から情報入手して、個別支援計画を作成している。意思表示が難しい利用者も多く、水彩画や缶バッチ作り、YouTube、ゲーム、ペンダント作成、カラオケ、散歩やイベントなどを用意して、利用者が自分で好きなことを選ぶことができるよう取り組んでいる。畑仕事やタオルたたみ、チラシ折り、空き缶回収などの作業があり、利用者は朝の会で、その日何に取り組むか自分で決めている。利用者は、作業内容のボードに、自分の名前の札を貼っている。休憩や食後の時間も、好きな遊びを選んだり、本を読んだりして、自由に過ごしている。食事や着替え、トイレなど、おおむね自立している方が多く、支援が必要な利用者は少ないが、職員は常に声掛けし、コミュニケーションに心掛け、見守りながら支援している。	
【A4】 A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	b
<コメント>	
言語でのコミュニケーションが可能な利用者もいるが、言葉が不明瞭な方、耳が不自由な方、言葉が不自由な方など、さまざまな利用者が活動している。利用者一人ひとりの状況に応じて、本人用のボードを使っての会話、絵カードや筆談による会話を行っている。言葉が不自由な方には、職員のアプローチに対する反応をよく見て代弁し、本人の意思を確認している。意思表示が困難な利用者は、日頃から表情や小さなサインを見逃さないようにしている。また、家族から情報を聴き対応している。言葉の表出が可能な方には、皆の前で本の読み聞かせを行ってもらったり、カラオケで歌ってもらおう機会を作っている。最新式のカラオケ機器の使用を楽しみにしている利用者も多い。	

【A5】 A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
--	---

<コメント>

事業所内に相談室を設け、利用者にはいつでも相談を受けることができることを伝えている。相談室を活用することはあまりないが、日頃の活動の中で、常にコミュニケーションを多くとり、様々な場所で利用者の声を聴いている。月1回、利用者の自治会を開催し、会長や副会長、書記の利用者が会の進行を担当している。利用者の話し合いの内容は、作業や行事、やってみたいこと、行きたいところなどで、利用者が話し合いで決めている。毎年行うイベント「かっぱ祭り」では、ある年は事業所全体をお化け屋敷にして装飾したり、ある年は事業所を沖縄にして沖縄料理を楽しんだり、自分たちで内容を決めて実行している。旅行に行きたいという希望には、職員がすべての候補地のパンフレットを用意し、職員から候補地の特徴を聴いて、利用者が旅行先を決めている。月1回、オンブズマンが訪問し、希望者の話を聴いている。本人の了解があるときは、話の内容をオンブズマンから管理者にフィードバックしている。

【A6】 A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	b
--	---

<コメント>

アセスメントをもとに個別支援計画を策定している。半年に1回モニタリングを行い、本人から今までの生活はどうだったか、これから何をやってみたいかなどを聴き取り、個別支援計画の見直しに反映している。ビーズ装飾を作ってみたいとの希望があった利用者の個別支援計画には、ビーズ装飾を記載して、利用者が楽しんで取り組んでいる。個別支援計画は、個別支援計画作成会議を経て策定している。月1回開催する利用者の自治会の話し合いから、利用者のニーズを把握して計画に反映している。

【A7】 A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
---	---

<コメント>

利用者は知的障害の方が多く、精神障害や発達障害の利用者も通所している。自閉的傾向の方もいる中、何らかのきっかけでパニックになったり、強いこだわりがあったりする。職員は利用者一人ひとりの状態を把握し、その方に合った対応を行っている。集団での活動が苦手な方には、パーティーションで落ち着けるスペースを作り、こだわりの強い方にはその方独自のルーティンが確保できるようにしている。障害の特性や行動特性に応じ、席の配置を配慮したりしている。職員は毎日の終礼や職員会議、ケース会議、個別支援計画作成会議などで、利用者の特性を理解、共有して支援にあたっている。職員が強度行動障害研修や相談支援従事者研修などの外部研修に参加する他、法人内の研修に参加し、専門的知識の習得に努めている。

A-2-(2) 日常的な生活支援	第三者評価結果
------------------	---------

【A8】 A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	b
--	---

<コメント>

昼食は利用者の好みに応えられるよう、注文弁当業者2社を活用している。カロリー控えめのヘルシー弁当を注文したり、嚥下に課題がある方には職員が刻み食にしたり、ご飯を弁当からではなくお茶碗に盛り直して食べやすくしたりして、利用者個々に対応した食事を提供している。また、畑で収穫したサツマイモを、焼き芋にして楽しんだりしている。食事や排泄、衣服の着脱など基本的な生活動作は、ほぼ自立している方が多い。事業所内のシャワー室は、夏場、農作業後に使用することが多い。余暇時間をどう過ごしてよいかわからない方が多いため、ゲームやカラオケ、DVD、本、手芸など選択肢を広げ、利用者が好きものを選ぶことができるよう工夫している。

A-2-(3) 生活環境	第三者評価結果
--------------	---------

【A9】 A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
---	---

<コメント>

11年前、センターの建て替えを行っている。建て替え後は精神に障害のある方の受け入れもあり、また、集団での活動が苦手な方のために個室を3部屋用意している。利用者は集団での活動では落ち着かない方が多く、作業室内もパーティーションで区切り、落ち着いた空間で作業に集中できるようにしている。室内外は職員が毎日清掃、消毒を行い、3か月に1回、業者による床清掃を実施している。室内は明るく、その時の状況に応じ室温を職員が調整している。室内や廊下、階段には利用者の額入りの水彩画や習字、季節の装飾などをたくさん飾り、美術館のような雰囲気を作っている。休憩時間に壁たたきをしている利用者がいたが、事業所内には破損箇所は見られなかった。廊下にはソファを置き、職員とのんびり話をしている姿も見られ、利用者にとって安心した居場所となっている。

A-2-(4) 機能訓練・生活訓練	第三者評価結果
【A10】 A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<コメント>	
機能訓練のための専門職は配置していないが、法人内の理学療法士と相談ができる体制を整えている。また、医療機関との連携の中で、散歩やストレッチなどの助言を受けて、生活訓練として実施している。特にストレッチは、毎日のプログラムの中に入れ、利用者全員で行っている。2か月に1回、「ドラムサークル」（ドラムを使った音楽療法）の専門家が来所して、ドラムを叩きながらリズムをとったり、身体を動かしたりして、利用者も楽しんで参加している。開所当初からの利用者は、50歳代や60歳代の方が多く、今後も運動機能維持のためのプログラムを増やしていく予定である。	
して	
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援	第三者評価結果
【A11】 A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	b
<コメント>	
健康管理マニュアルを整備している。職員は利用者の毎朝の検温、状態の観察を行っている。一人暮らしの方以外は、連絡ノートにより、家庭での状況やグループホームでの状況を把握し、利用者の健康状態を確認している。体調の急変があるときは、職員から管理者に連絡し、管理者が家族への連絡や救急車要請の手配を行っている。てんかんの発作のある方は、毎日の身体の状態や表情などから、早めに変化をキャッチするようにしている。月2回、法人内の看護師が巡回訪問して、利用者のバイタルチェックや体重測定を行っている。年1回の健康診断は、嘱託医が来所して行っている。年1回、歯科検診も行い、アドバイスをもらっている。治療が必要な場合は、家族に伝えている。	
【A12】 A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	b
<コメント>	
高齢になるにつれ、糖尿病や高血圧、腎臓、肝臓などの疾患を持っている利用者が多くなっている。家族と連携を取りながら、安全面に配慮して、医療的支援が必要な利用者を受け入れていきたいと考えている。現在は服薬のみで、その他の医療的ケアを必要とする利用者はいない。薬は1週間分を月曜日に職員が預かり、服薬ボックスに保管している。その後1、2階の担当職員がそれぞれの名前の入った箱に入れ替え、服薬時は利用者の名前を呼び、掌に薬をのせている。薬は自分で飲んでいるが、職員は服薬の状況を確認している。昼食後には、職員2人で飲み忘れがないかどうかを確認している。その他、乾燥を防ぐ塗布薬や点眼薬は、チェック表に記入している。	
A-2-(6) 社会参加、学習支援	第三者評価結果
【A13】 A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	b
<コメント>	
地域の自治会に加入しているが、コロナ禍のため活動に参加する機会は少ない。コロナ禍前は、自治会のふれあいサロンに参加していた。3年前から、近隣のごみ拾いをして、地域の清掃を自主的に行っている。事業所は目久尻川のそばの遊歩道に沿って建てられており、地域の人たちの散歩コースであるため、農作業時などには地域の方たちとの触れ合いも多い。近くの海老名運動公園で体育大会に参加していたが、コロナ禍のため、現在は中止になっている。	
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援	第三者評価結果
【A14】 A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	b
<コメント>	
アセスメントにより、利用者や家族のニーズを把握し、地域移行に向けた情報提供や関係機関との調整を行っている。利用者は自宅やグループホームから通所しているが、相談支援事業所や市のケースワーカー、市社会福祉協議会などと連携を取りながら、地域移行に向けた体験や短期入所の利用をすすめている。事業所として、これからどのようなアプローチができるか、検討していく必要性を感じている。	

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援	第三者評価結果
【A15】 A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<コメント>	
毎日、連絡ノートにより、家族やグループホームの職員と連携をとっている。利用者に体調の変化があった場合は、すぐに電話で状況を説明している。日々の送迎の際、家族とのコミュニケーションを大切に、家族もいろいろと話してくれている。3か月に1回、家族会を開催して、家族からいろいろな意見をもらっていたが、コロナ禍により現在は開催できていない。そのため、広報誌「かっぱタイムズ」を毎月、家族に配布して、利用者の「かっぱ堂」での活動の様子を伝えている。家族の高齢化も進み、今後のことを相談してくる家族もいる。相談は随時受け付け、相談室で行い、記録に残している。また、何か月も来所していない利用者の家族から、家族が入院してしまったため助けてほしいと連絡があり、短期入所の手配をして対応したケースもある。	

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援	第三者評価結果
【A16】 A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<コメント>	
障害者の多機能型事業所のため、評価外とする。	

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援	第三者評価結果
【A17】 A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
<コメント>	
受注作業活動としてのチラシ折り、タオルたたみ、自主製品活動としての缶バッジ制作、野菜作りを行っている。水彩画、ピーズ制作などはイベントなどで販売している。特に農作業で栽培したネギや安納芋、大根など、季節ごとの収穫物を販売して、地域の方たちに喜んでもらっている。また、事業所内にある柿や花梨の果実も販売している。水彩画でカレンダーを作成し毎年販売している。手芸や水彩画などの作品を、市の作品展に応募することを励みに制作している方もいる。利用者一人ひとりに合った作業を提供し、工賃を上げていく努力をしているが、楽しみを持って働くことをモットーとしている。利用者が楽しさを感じながら仕事ができるよう工夫している。	
【A18】 A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	a
<コメント>	
利用者一人ひとりの特性に応じ、受注作業も含め多種多様な作業を提供している。チラシの折り方がずれないように、チラシの2辺を固定できる補助道具を職員が作るなど工夫をして行ってもらっている。水彩画や手芸、カレンダーなど、作品展に積極的に応募して、利用者の主体性や達成感につなげている。特に、絵を描くことが好きな利用者はたくさんの水彩画を描き、事業所内に額に入れて飾り、利用者の作品を大切にしている。また習字の好きな方がイベントの案内表示を書くなど、それぞれが好みに合わせた作業を自分で選んで楽しみながら行っている。	
【A19】 A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a
<コメント>	
今まで地域企業（新公建設）が借りていた畑を、市社会福祉協議会の仲立ちで引き継ぎ、野菜作りを行っている。地域企業（新公建設）からの委託金は、野菜の苗を購入したり、利用者の工賃に充てている。また、市社会福祉協議会の紹介で、農作業に詳しい方がボランティアとして野菜作りの指導を行っている。市や市社会福祉協議会、地域企業（新公建設）、かっぱ堂が連携して「食と職 海老名市笑顔化計画」として野菜作りを行い、作物の一部は子ども食堂に寄付をして、子どもたちに提供している。令和3年度、取り組みの内容を、かながわ福祉サービス大賞で紹介し、食と職がつながり、笑顔が増えたとして、優秀賞を受賞している。また、作物はスーパーや無人販売で売り上げを伸ばしている。賃金向上計画を作成し、今後も様々な事業に取り組んでいきたいと考えている。	